

式 辞

海上技術コース(航海・機関)卒業生のみなさんへ
海上技術コース(航海専修・機関専修)卒業生のみなさんへ

厳しい寒さは過ぎ去り、少しずつ春めいた暖かな日が訪れてきました。

本日このよき日に、令和2年度海技大学校卒業式を挙行できますことは、本校にとりまして大きな喜びであり、教職員を代表し、一言お祝いの言葉を申し上げます。

海上技術コース(航海・機関)及び海上技術コース(航海専修・機関専修)の諸君、卒業おめでとうございます。

諸君は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1年時の三月初旬に海技大学校が臨時休校となったことから、自宅にて課題学習を行って頂きました。加えて乗船実習開始も7月1日まで遅れました。この様に例年とは異なる特異な状況下で学生生活を送ってきました。乗船実習が修了し、海技大学校に帰ってきてからも学生寮で生活しながら、ガイドラインに基づき新型コロナウイルス感染症対策を確実に実行していただきました。いまだ感染者が出ていないのは、諸君が日頃より新型コロナウイルス感染症対策を確実に実行していた証であると思料します。

諸君は海技大学校の2年間で、四級海技士の知識を基礎として、三級海技士に必要な知識、技術を学んできました。入学当初に抱いていた目標、たとえば二級海技士の筆記試験合格、TOEICで高得点取

得、あるいは希望している船社から内定を頂くなどは達成できたでしょうか。光陰矢の如し、二年間はあっという間に過ぎ去ったのではないのでしょうか。しかしここで学ぶことは終了ではなく、今から始まります。習うは一生という諺があります。新しいことを知り、身に着けていくためには、人は、一生を通じ、常に学ばなければならないという意味です。今後、航海士及び機関士として活躍していく上で新しい知識、技術を身に着けるために、新たな勉強が必要となります。一生を通じて学ぶ姿勢を第一としてください。

船の世界は、新しい技術の導入により、大きくその姿を変えてきました。最近では、無人運航船、遠隔操縦船、あるいは水素、アンモニア燃料船等の名称を業界誌などで目にします。近い将来、新しい技術の導入が更に進み無人運航船、遠隔操縦船が世界の海を航海し、推進プラントで使用する燃料は、重油、LNG を経て水素、アンモニア燃料に代わる日も、もはや夢物語では無いのかもしれませんが。しかしながら、どんなに技術が発達し、船員を取り巻く環境がいくら変化しようとも、船員のスキルは、船舶運航の核であることは、将来にわたっても変化しないでしょう。

本校を卒業し、航海士及び機関士として、世界に羽ばたいていくことになりますが、常に学ぶ姿勢を忘れないで、真摯に仕事に向き合い、仕事を確実に実施できる船員になっていくことを期待しています。

海上技術コース(航海・機関)の諸君は、同コースの最後の卒業生となります。海上技術コース(航海・機関)は、三級海技士第四、海上技術科と名称の変遷はありましたが、27年間継続し、数多くの卒業生を海運界に送り出してきました。本日卒業される諸君も海上技術コース(航海・機関)の卒業生である誇りを持ち今後の人生を過ごしていただきたいと思います。

最後に、卒業生諸君の希望に満ちた船出を祝し、益々の健康と、前途に幸多からんことを心から祈念して、式辞といたします。

令和3年3月12日

独立行政法人海技教育機構 海技大学校長 前田 潔